【問合せ先】
第五管区海上保安本部
交通部安全対策課
課長　堀　成吾
電話 078-391-6551（内線 2640）

第五管区海上保安本部
平成 30 年 4 月 20 日
午後 3 時 00 分発表

Marine Report 2017
～平成２９年の「海の事故」発生状況について～

○ 船舶事故隻数は、前年比 11 隻減の 200 隻でした。

【船舶用途別】プレジャーボートが 104 隻(52%)、漁船が 36 隻(18%)、貨物船が 21 隻(11%)となっています。そのうち小型船舶は 143 隻で全体の約 7 割を占めています。

【事故種類別】衝突 74 隻（37%)、乗揚 34 隻（17%)、機関故障 29 隻（15%)、推進器障害 20 隻（10%)、運航阻害 17 隻（9%）となっています。

【発生月別】5 月から 11 月の期間が、12 月から 4 月の期間と比べ、事故が多発しています。

<プレジャーボートの事故>

【事故種類別】機関故障 24 隻(23%)、乗揚 19 隻(18%)、推進器障害 17 隻(16%)、衝突 15 隻(14%)、運航阻害 14 隻(13%)となっています。

（機関故障の原因別）老朽衰耗 13 隻(54%)、整備不良 6 隻(25%)、その他 5 隻(21%)となっています。

（乗揚の原因別）水路調査不十分 6 隻(32%)、見張り不十分 4 隻(21%)、操船不適切 4 隻(21%)の順となっています。

<漁船の事故>

【事故種類別】衝突 21 隻(64%)、乗揚 3 隻(9%) の順となっています。

（衝突の原因別）見張り不十分 20 隻(95%)、操船不適切 1 隻(5%)となっています。

<操船者の年齢の特徴>

【高齢者（６５歳以上）】事故隻数は、全船舶では 67 隻(34%)、小型船舶では 50 隻(35%)となっています。

○ 人身事故者数は、前年比 50 人減の 266 人、死者・行方不明者数は前年比 15 人減の 117 人でした。

≪灯台150周年記念ロゴ≫
150th LIGHTHOUSE ANNIVERSARY

【マリンレジャーに伴う海浜事故活動内容別】

釣り中の事故が 38 人(51%)、遊泳中の事故が 15 人(20%)、その他の事故が 12 人(16%)、スキューバダイビング中の事故が 6 人(8%)となっています。

〈釣り中の事故〉

海浜事故によるもの（陸釣り）が 38 人、船に乗船中のもの（船釣り）が 11 人となっています。海中転落による事故者が 36 人、帰還不能による事故者が 5 人となっています。海浜事故によるもの（陸釣り）の内訳を見ると、岸壁での事故が 14 人、磯場での事故が 11 人となっています。

【ライフジャケットの着用状況】岸壁では１４人中１３人が、防波堤では８人中７人がライフジャケット未着用でした。

～「海の事故」ゼロに向けての取組み～

小型船舶、マリンレジャーに伴う人身事故の事故防止対策に取組み、以下の啓発活動を計画的に推進します。

(1) 「発航前、機関や燃料等の点検の実施」、「航行時、常時見張りの徹底」、「故障時に備え、救助支援者の確保」の自船の安全確保３か条の励行
(2) 発航前点検はもちろん、専門業者による機関の定期的な点検
(3) 「ライフジャケットの常時着用」、「防水パック入りの携帯電話等の連絡手段の確保」、「118 番の活用」の自己救命策確保３つの基本
(4) 高齢の操船者を意識した安全啓発

※ 平成 29 年の海難発生状況の詳細な内容については、資料編「Marine Report 2017」平成 29 年における海難の傾向の分析資料をご参照下さい。

≪灯台150周年記念ロゴ≫

Marine Report 2017

～船舶事故隻数及び人身事故者数～

平成29年における海難の傾向の分析
□資料編

平成３０年４月２０日
交通部安全対策課

目次

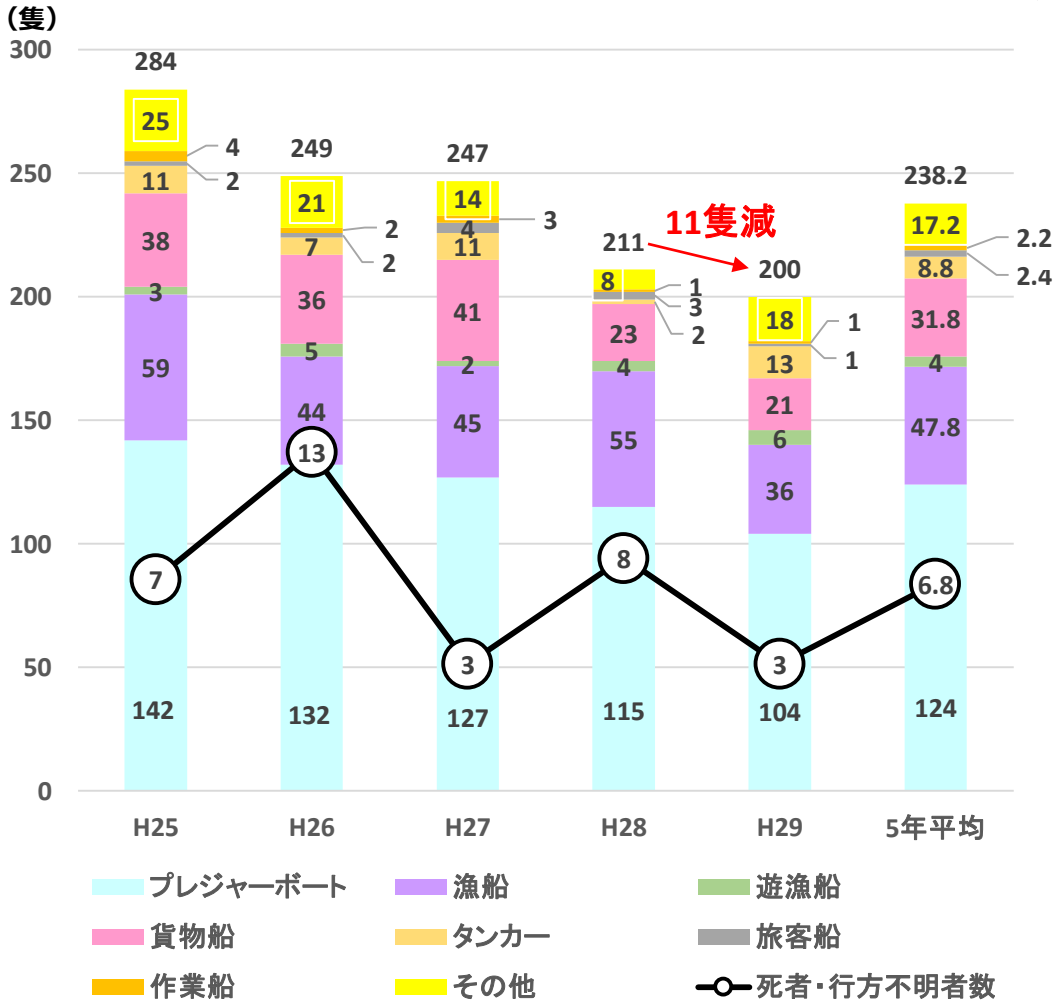
◆ 平成29年船舶事故傾向分析
（１）概観 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １～4
（２）プレジャーボートの事故 ・・・・・・・・・・・・・・ 5～7
（３）漁船の事故 ・・・・・・・・・・・・・・ 5～9
（４）操船者の年齢の特徴 ・・・・・・・・・・・・・・ 10

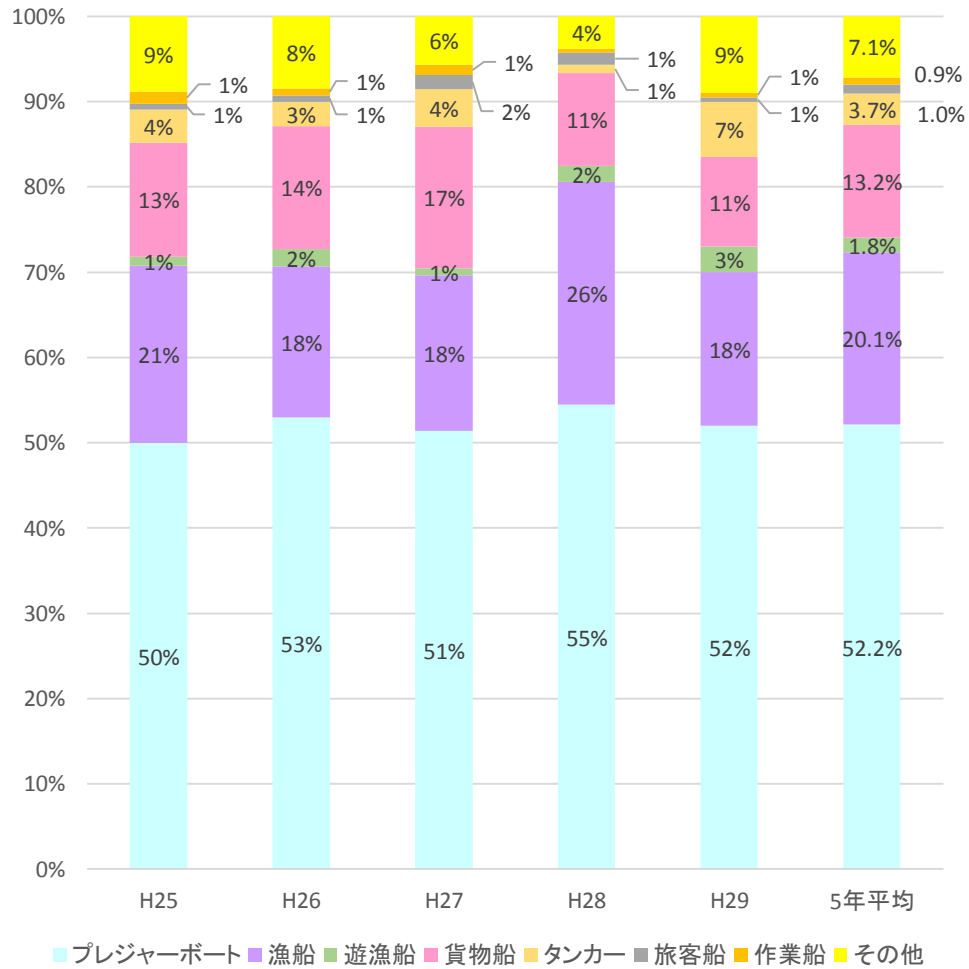
◆ 平成29年人身事故傾向分析
（１）概観 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
（２）マリンレジャーに伴う海浜事故 ・・・・・・・・・・・ 12
（３）釣り中の事故 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13～14
（４）遊泳中の事故 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15～16

（1）概観

平成29年の船舶事故は200隻で、対前年比11隻（5%）減少し、平成13年以降最少となっています。 船舶種類別の隻数は、プレジャーボート104隻(52%)、漁船36隻(18%)、貨物船21隻(11%)の順となっており、小型船舶が約7割を占めています。

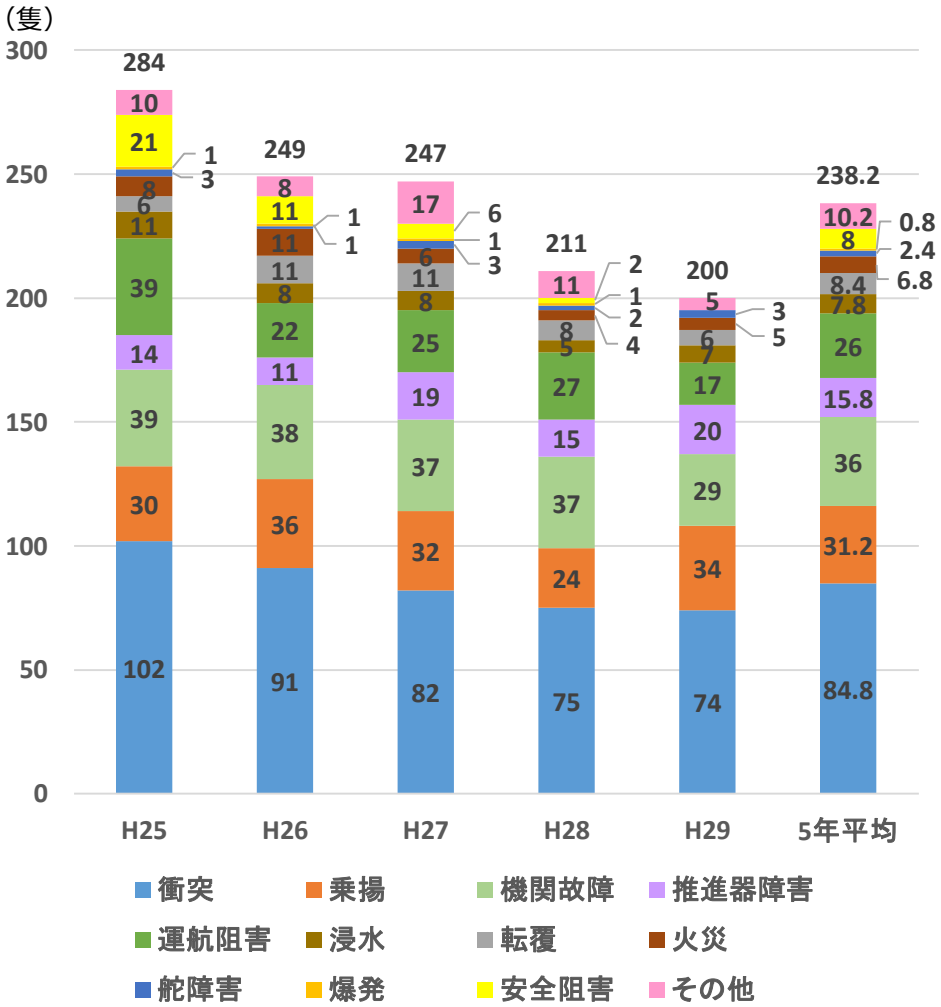
※小型船舶とは、２０トン未満のプレジャーボート、漁船、遊漁船をいう。

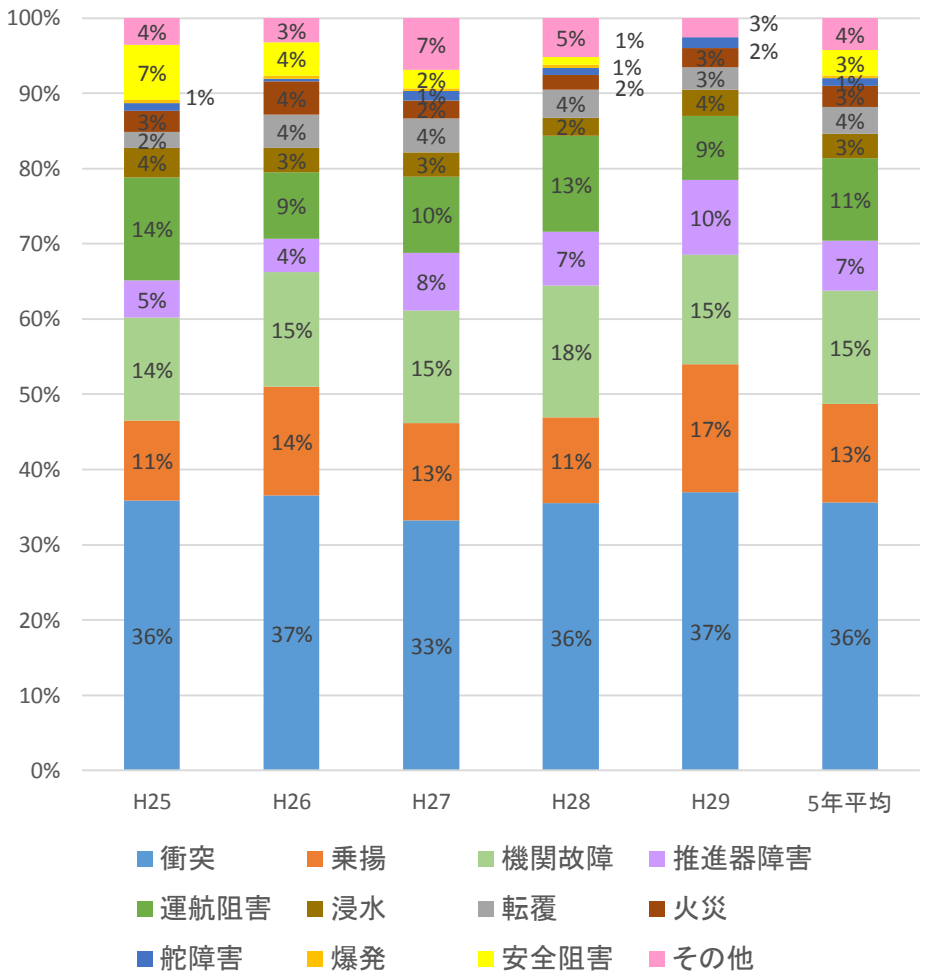




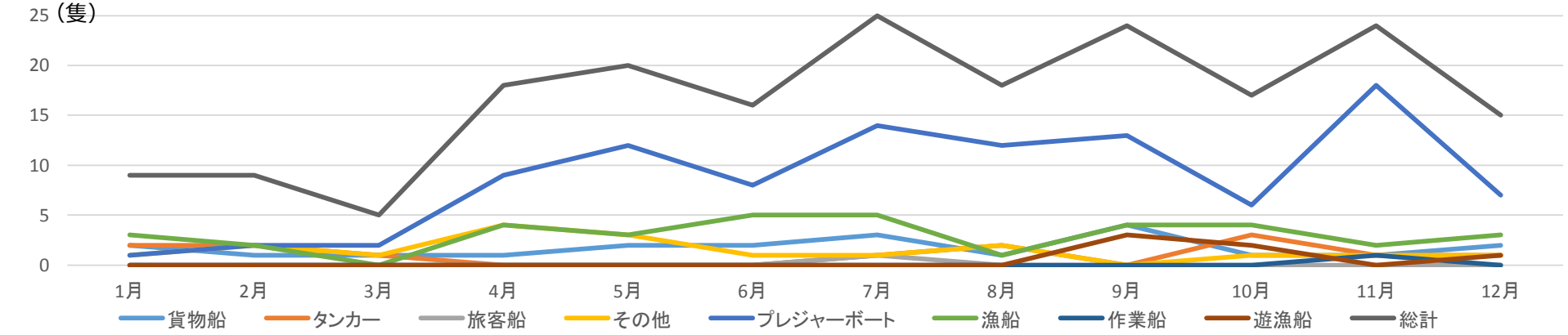
◆　平成29年船舶事故傾向分析資料

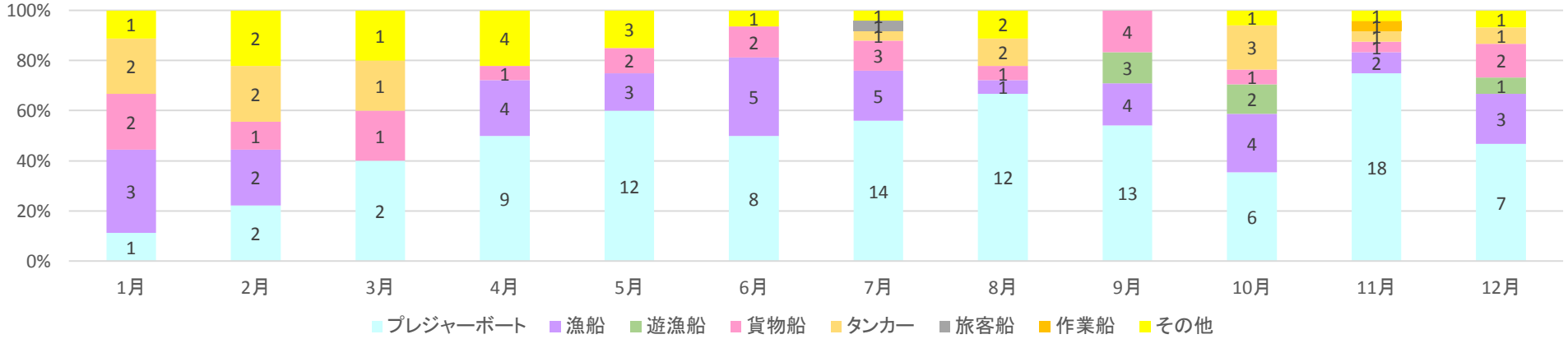
平成29年の事故種類別の隻数は、衝突74隻（37%）、乗揚34隻（17%）、機関故障29隻（15%）、推進器障害20隻（10%）、運航阻害17隻（9%）の順となっています。





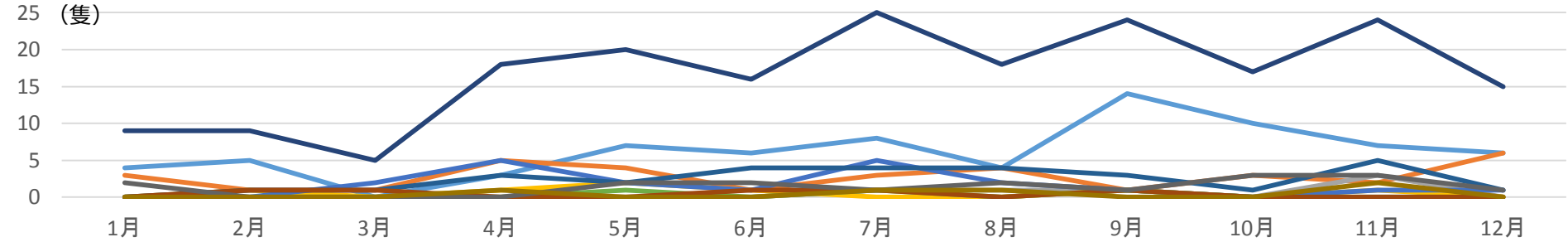
船舶種類別の月別推移（H29）は以下のとおりとなっています。

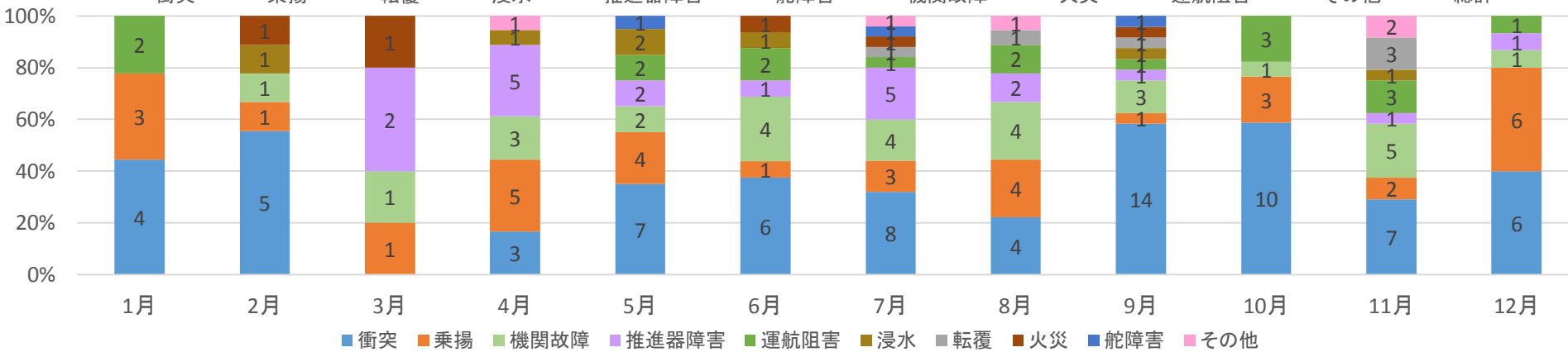




（隻）	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
貨物船	2	1	1	1	2	2	3	1	4	1	1	2	21
タンカー	2	2	1				1	2		3	1	1	13
旅客船							1						1
その他	1	2	1	4	3	1	1	2		1	1	1	18
プレジャーボート	1	2	2	9	12	8	14	12	13	6	18	7	104
漁船	3	2		4	3	5	5	1	4	4	2	3	36
作業船											1		1
遊漁船									3	2		1	6
総計	9	9	5	18	20	16	25	18	24	17	24	15	200

事故種類別の月別推移（H29）は以下のとおりとなっています。



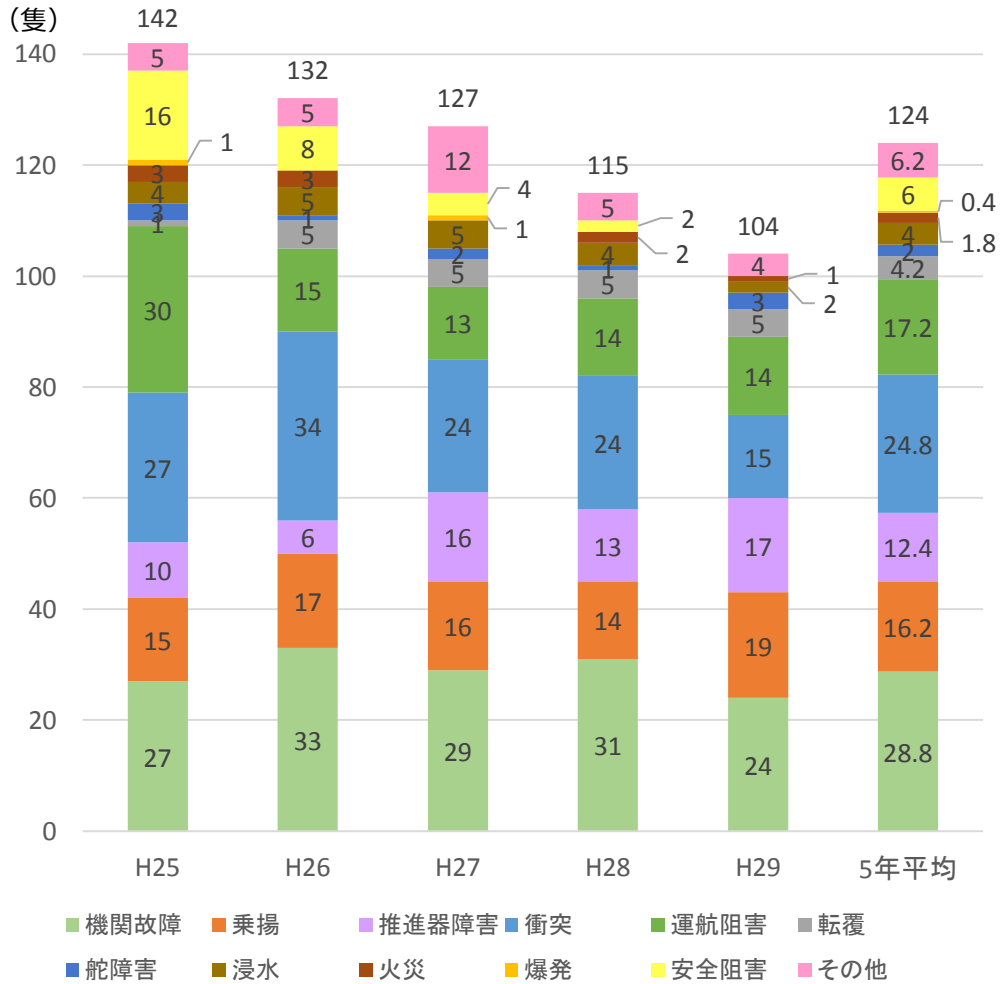


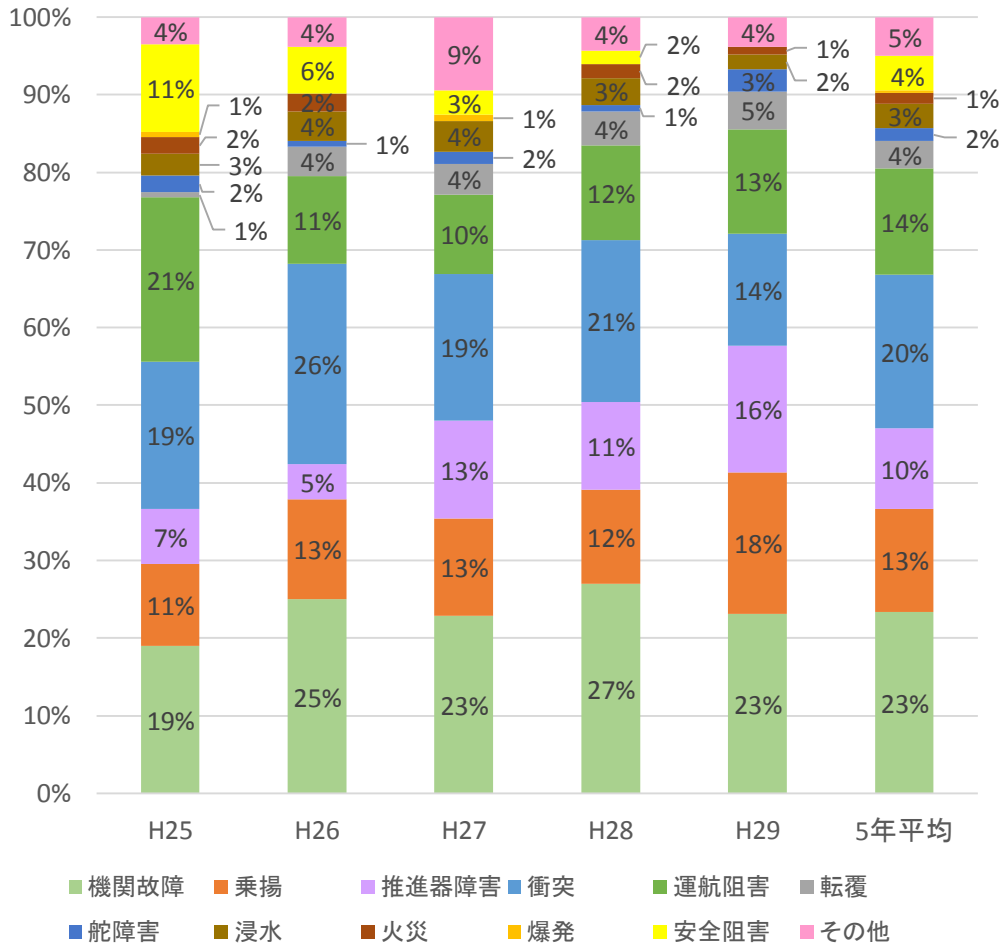
（隻）	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
衝突	4	5	0	3	7	6	8	4	14	10	7	6	74
乗揚	3	1	1	5	4	1	3	4	1	3	2	6	34
転覆	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	3	0	6
浸水	0	1	0	1	2	1	0	0	1	0	1	0	7
推進器障害	0	0	2	5	2	1	5	2	1	0	1	1	20
舵障害	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	3
機関故障	0	1	1	3	2	4	4	4	3	1	5	1	29
火災	0	1	1	0	0	1	1	0	1	0	0	0	5
運航阻害	2	0	0	0	2	2	1	2	1	3	3	1	17
その他	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	2	0	5
総計	9	9	5	18	20	16	25	18	24	17	24	15	200

(2)プレジャーボートの事故

平成29年の事故種類別の隻数は、機関故障24隻(23%)、乗揚19隻(18%)、推進器障害17隻(16%)、衝突15隻(14%)、運航阻害14隻(13%)の順となっています。

過去5年間平均の事故種類別の隻数においては、機関故障、衝突、運航阻害、乗揚の順となっています。

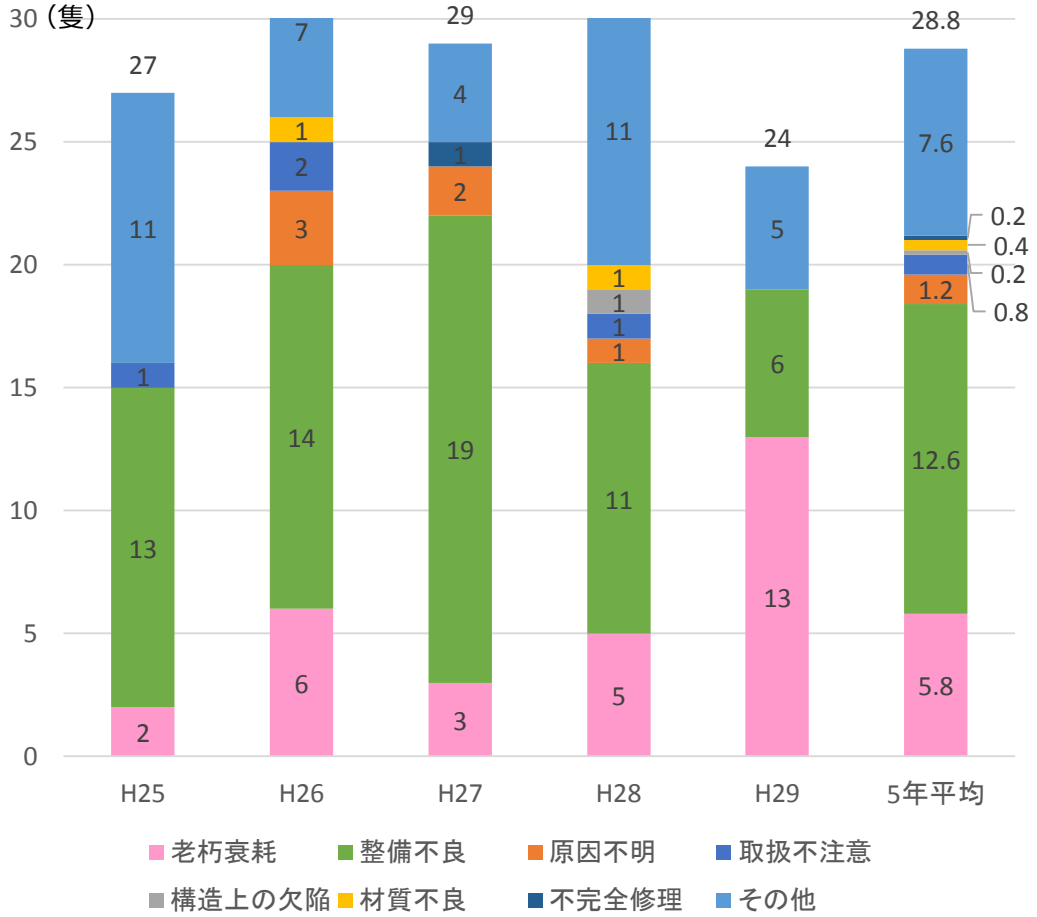


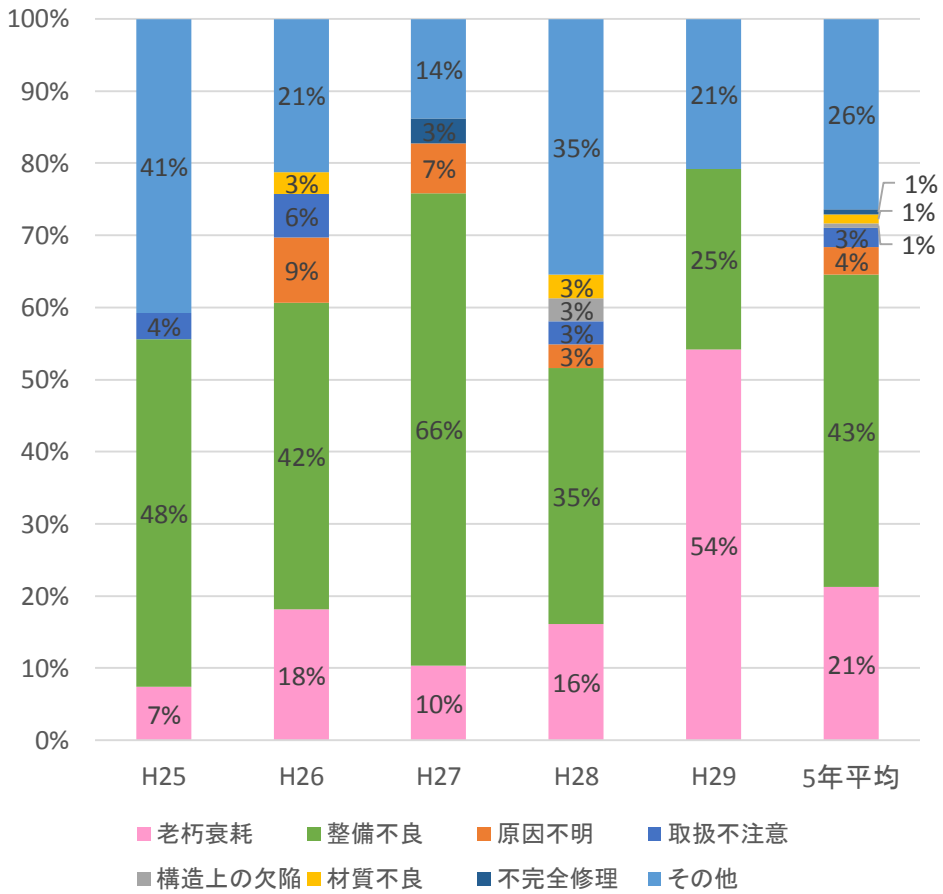


イ　機関故障

平成29年のプレジャーボートの機関故障24隻について事故原因別に見ると、老朽衰耗13隻(54%)、整備不良6隻(25%)、その他5隻(21%)の順となっています。

過去5年間平均の事故原因別の隻数においては、整備不良、老朽衰耗、その他の順となっています。

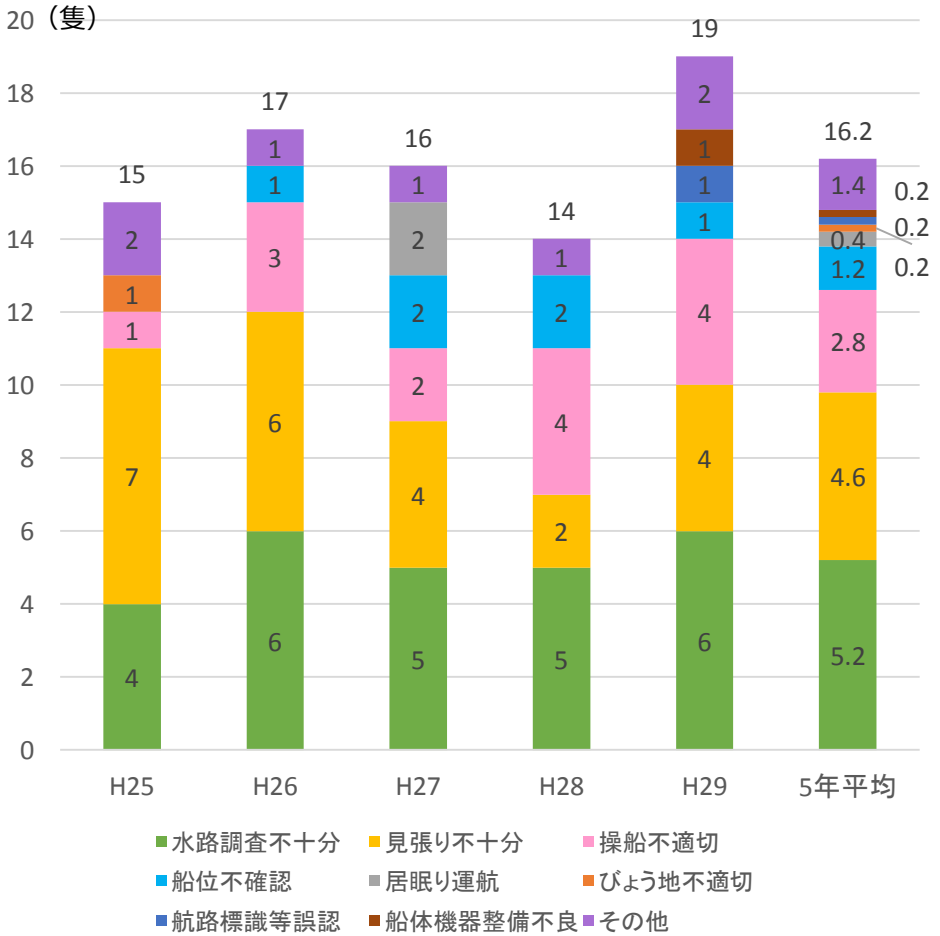


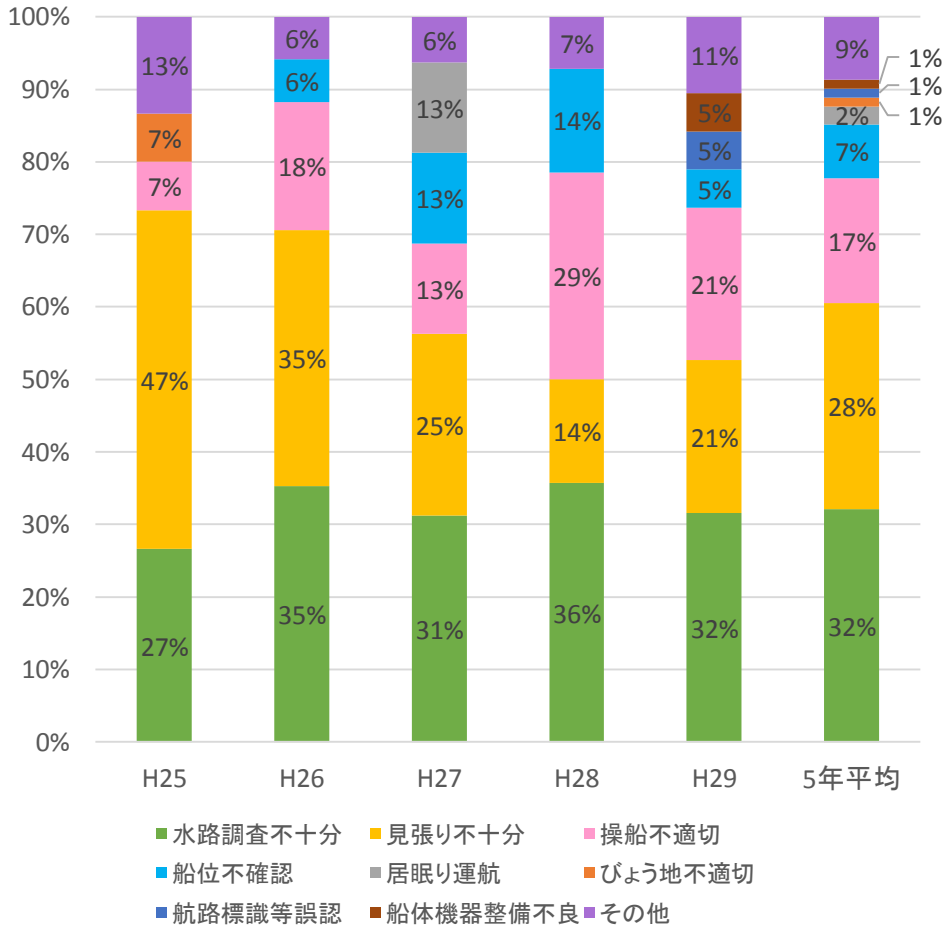


ロ　乗揚

プレジャーボートの乗揚事故19隻について事故原因別に見ると、水路調査不十分6隻(32%)、見張り不十分4隻(21%)、操船不適切4隻(21%)の順となっています。

過去5年間平均の事故原因別の隻数においては、水路調査不十分、見張り不十分、操船不適切となっています。

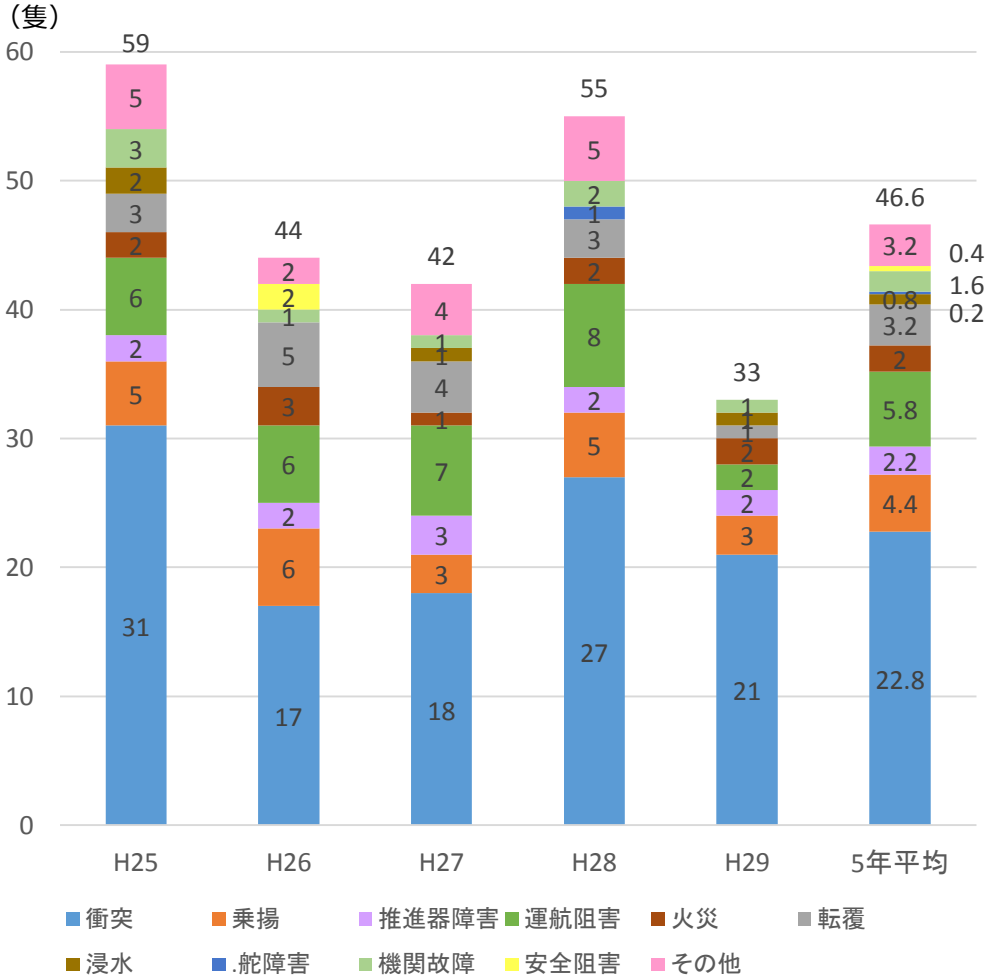


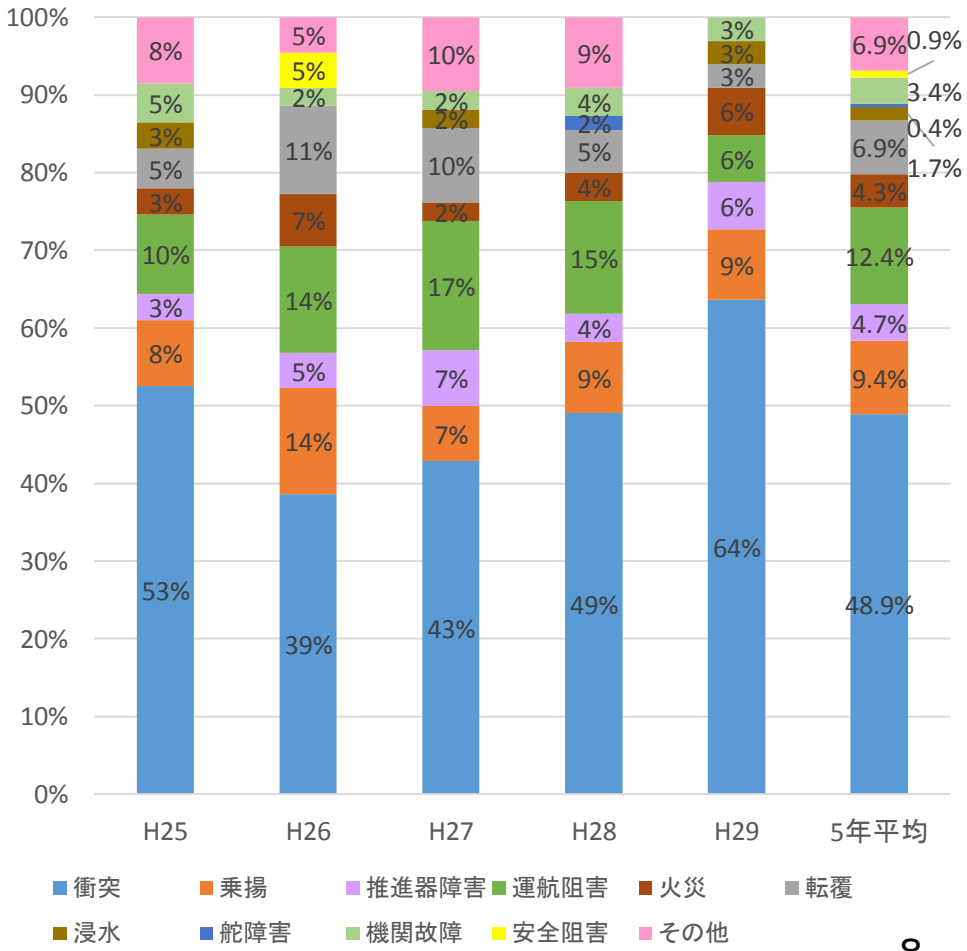


（3）漁船の事故　※２０トン以上の漁船を除く。

事故種類別隻数は、衝突21隻(64%)、乗揚3隻(9%) の順となっています。
過去5年間平均の事故種類別の隻数においては、衝突、運航阻害、乗揚の順となっています。

※H27、H29の数値は２０トン以上の漁船3隻を除いている。

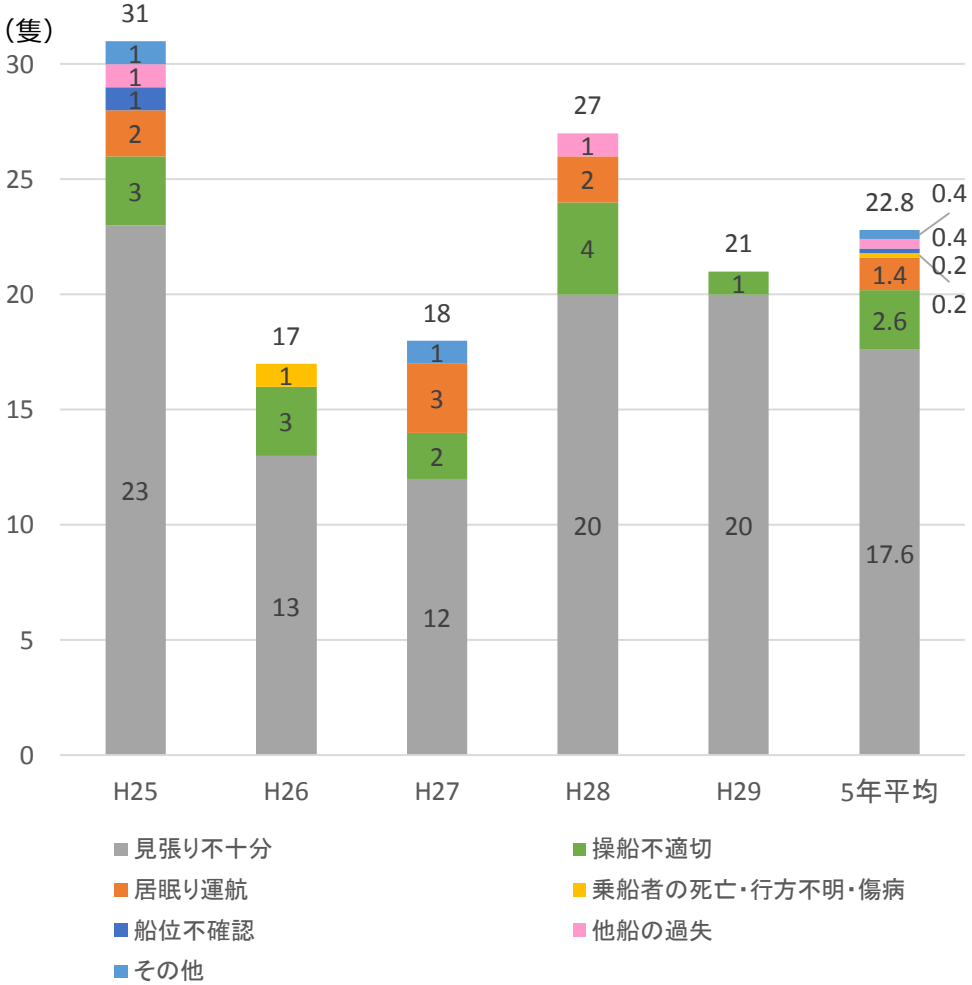


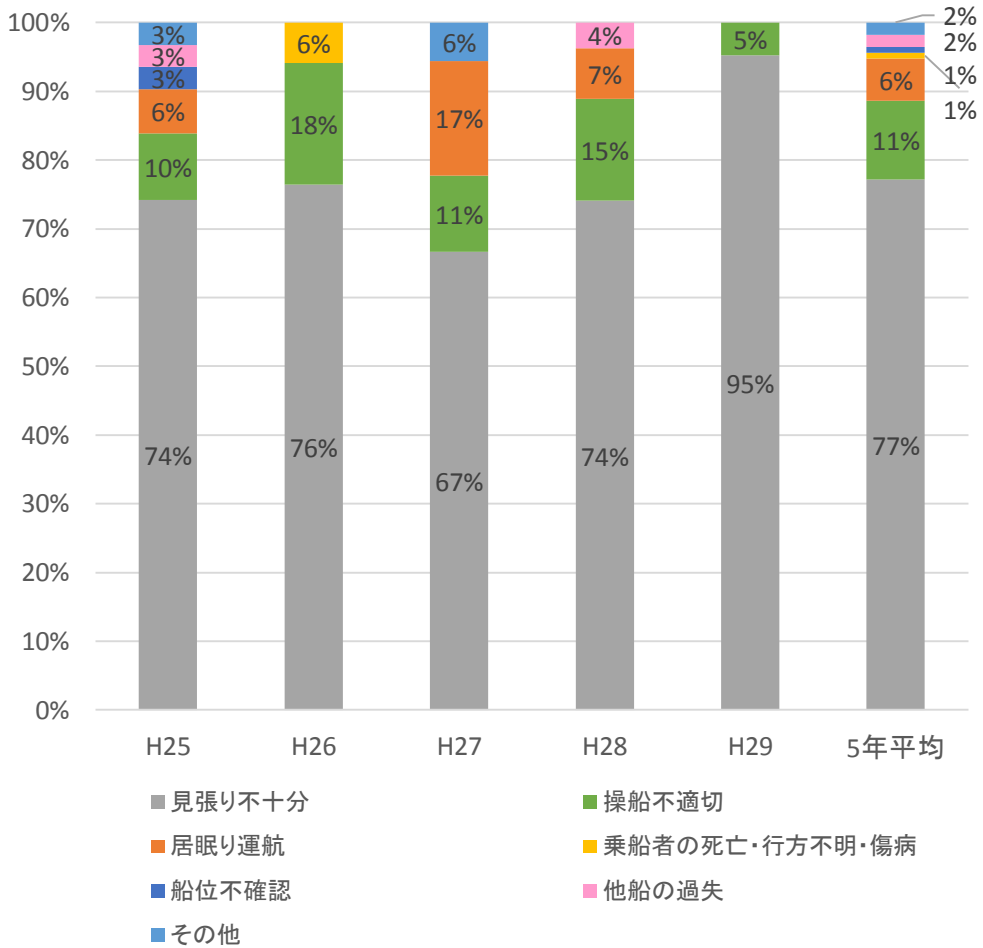


イ　衝突

平成29年の漁船の衝突事故21隻について事故原因別に見ると、見張り不十分20隻(95%)、操船不適切1隻(5%)の順となっています。

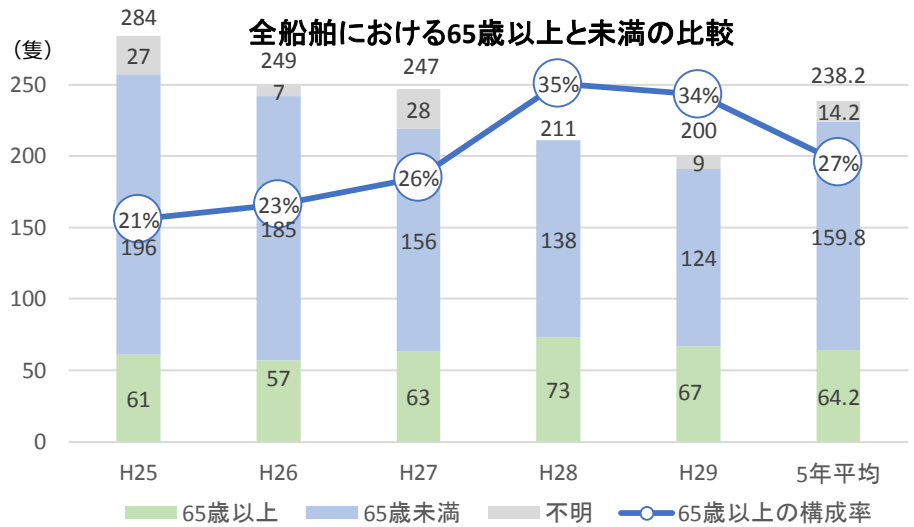
過去5年間平均の事故原因別の隻数においては、見張り不十分、操船不適切、居眠り運航の順となっています。

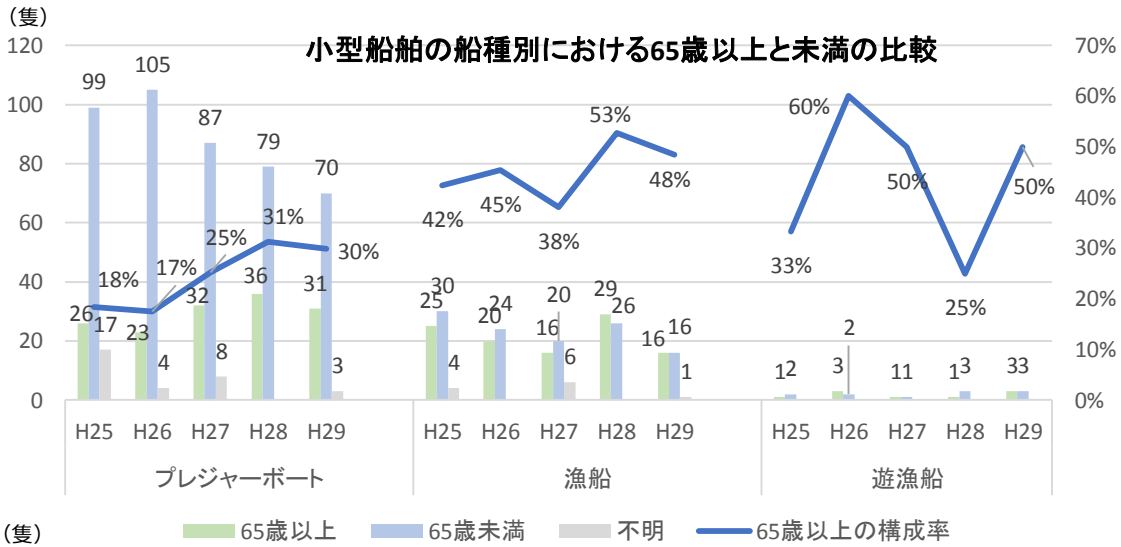


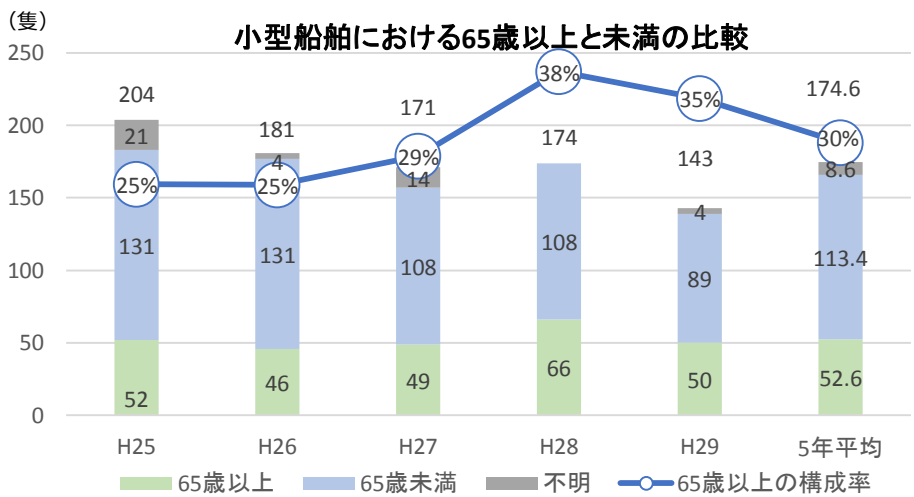


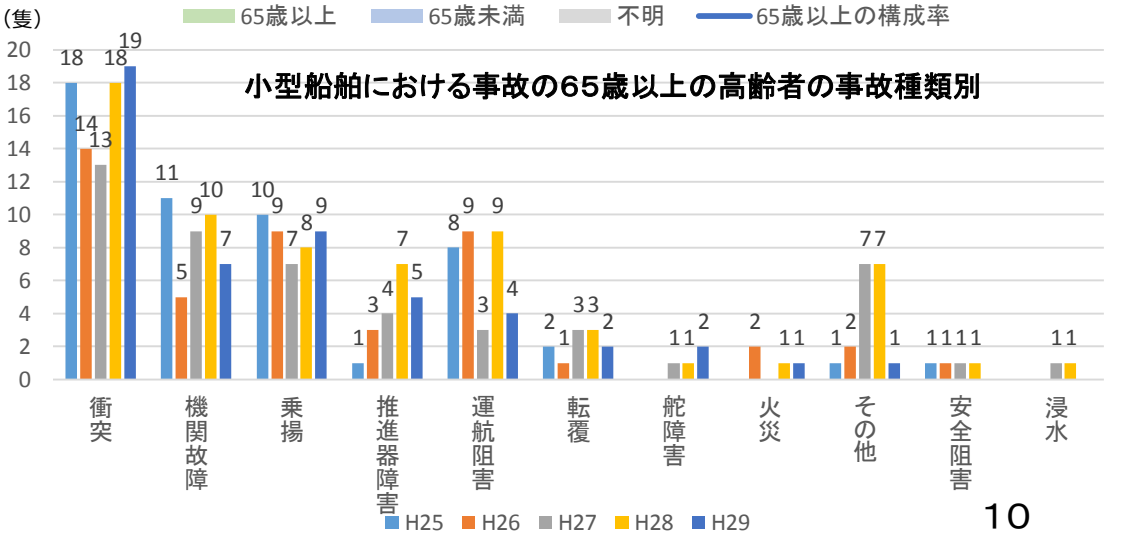
（4）操船者の年齢の特徴

平成29年の65歳以上の高齢者の事故隻数
全船舶では67隻(34%)、小型船舶では50隻(35%)となっています。
小型船舶の事故のうち、プレジャーボートが31隻(30%)、漁船が16隻(48%)、遊漁船が3隻(50%)となっています。
小型船舶の事故のうち65歳以上の高齢者の事故種類別では、H29年は衝突19隻、乗揚9隻、機関故障7隻の順に多くなっています。









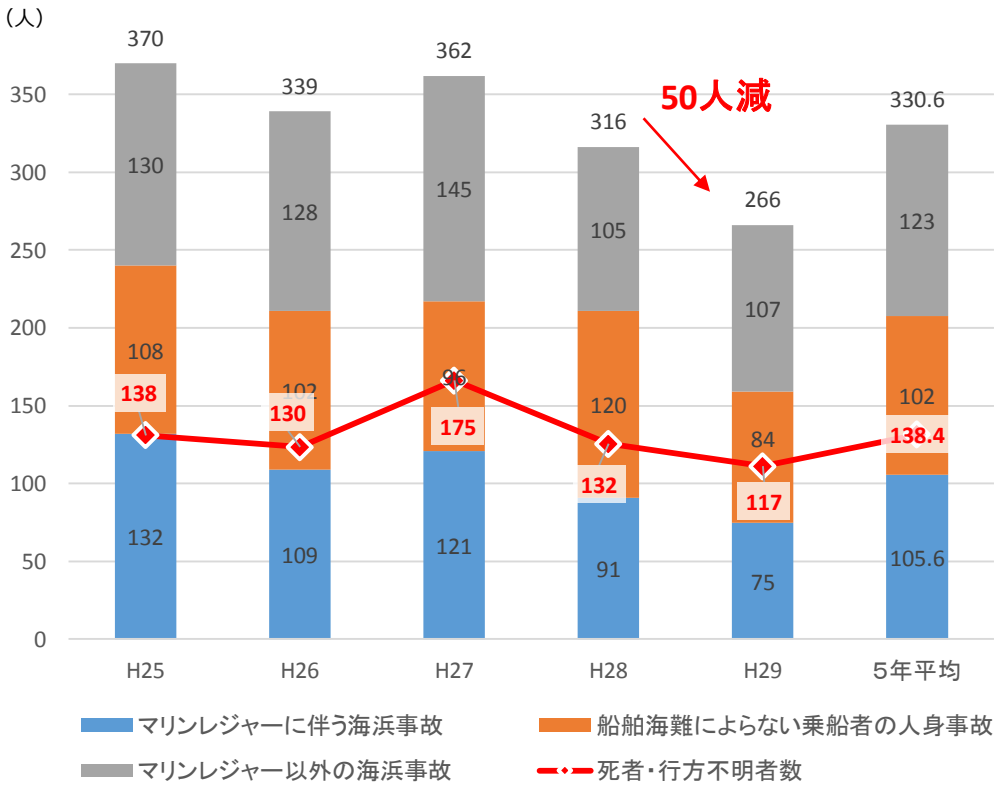
（1） 概観

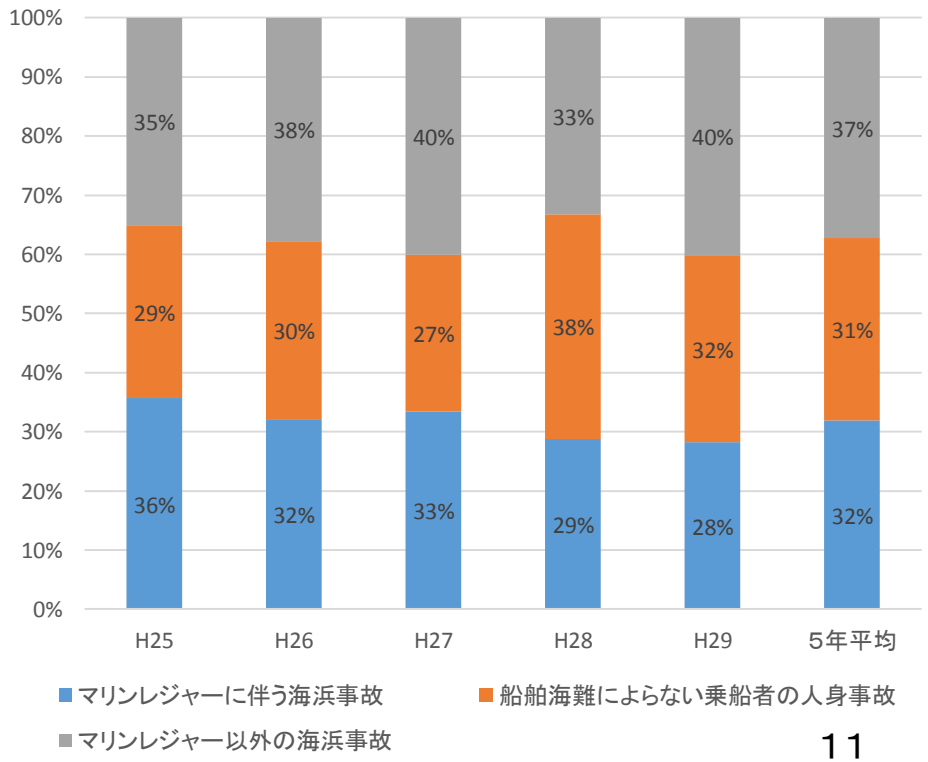
平成29年の人身事故者数は266人で、対前年比50人(約16%)減少し、平成13年以降最少となっています。事故の内訳は、マリンレジャーに伴う海浜事故が75人、船舶海難によらない乗船者の人身事故が84人、マリンレジャー以外の海浜事故が107人となっています。

※マリンレジャーに伴う海浜事故とは、海水浴、釣りなどの海洋における余暇活動に伴って発生した事故
【例】磯場などで釣り中に海中転落、遊泳中に溺れるなど

※船舶海難によらない乗船者の人身事故とは、船舶事故以外の事由により発生した船舶の乗船者の事故
【例】漁労中の負傷、船からの海中転落、船内での病気発症など

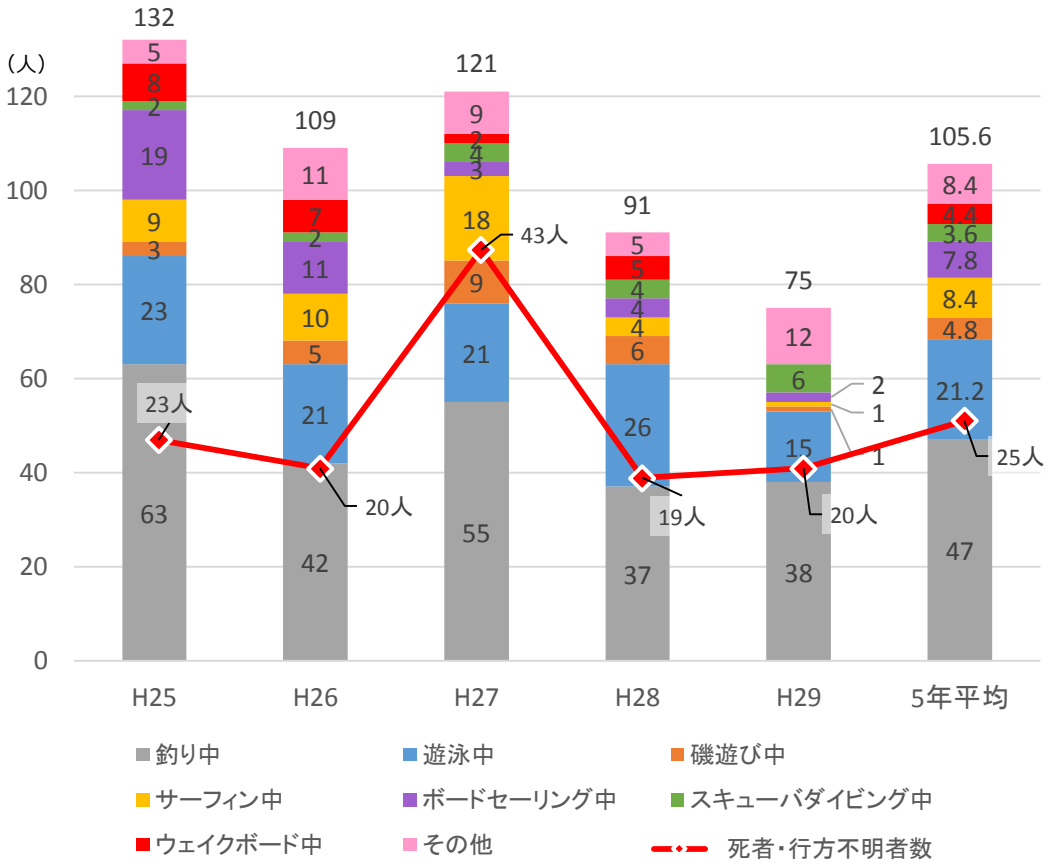
※マリンレジャー以外の海浜事故とは、余暇活動に伴うもの以外に海浜において発生した事故
【例】岸壁などからの入水自殺(未遂)、散歩中などに誤って岸壁などから海中転落

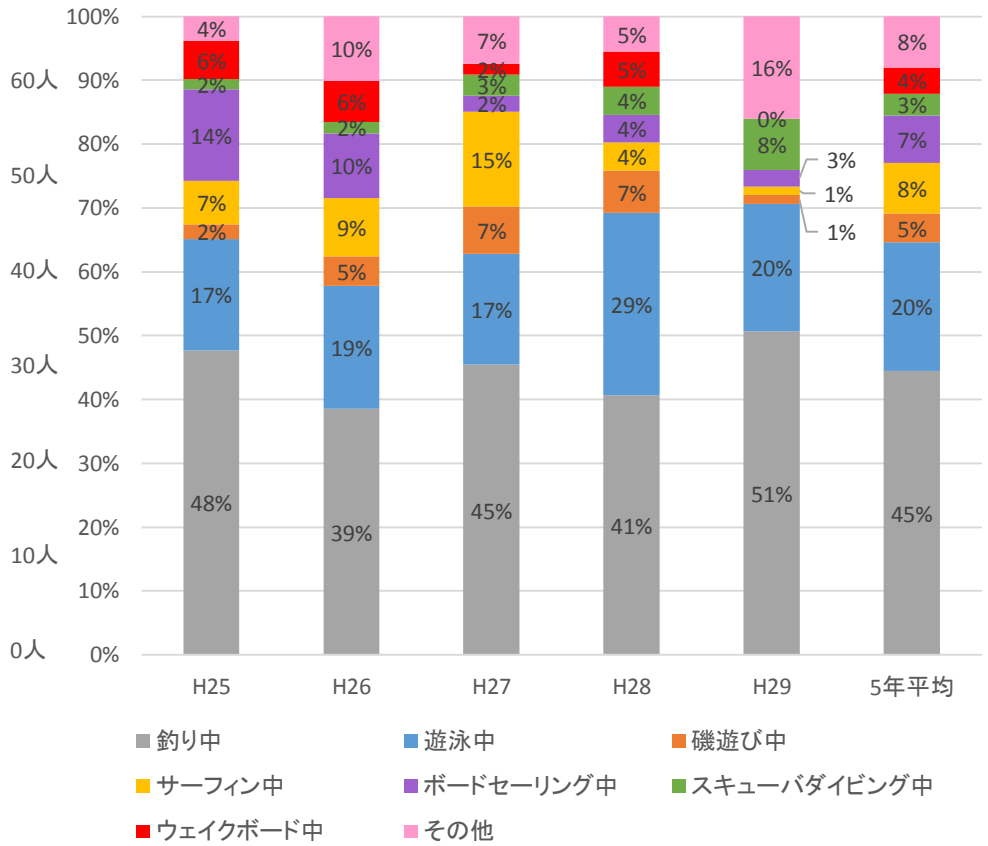




（2）マリンレジャーに伴う海浜事故

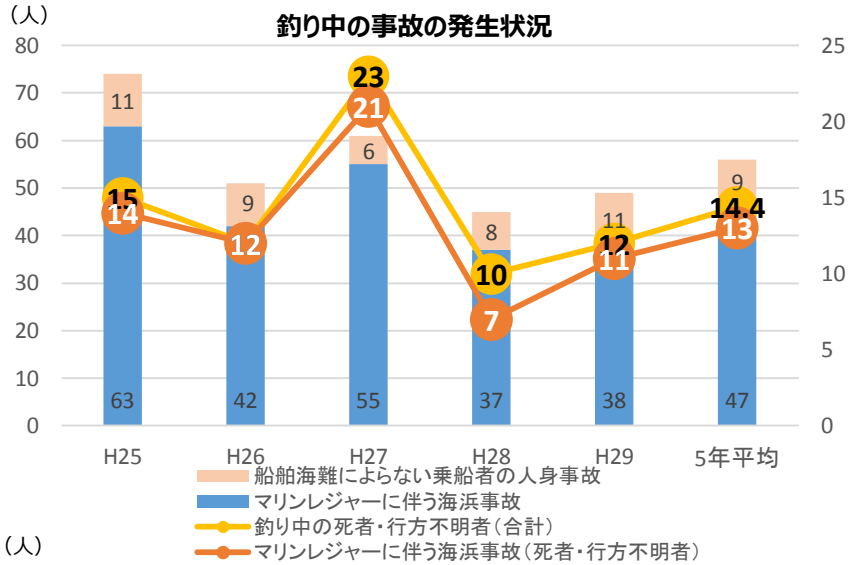
平成29年のマリンレジャーに伴う海浜事故者75人の活動内容別では、釣り中の事故が38人(51%)と最も多く、次いで遊泳中の事故が15人(20%)となっています。

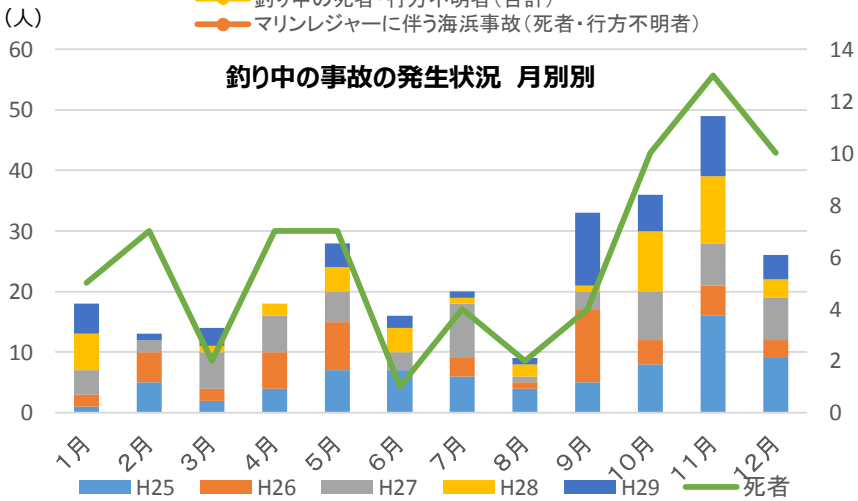


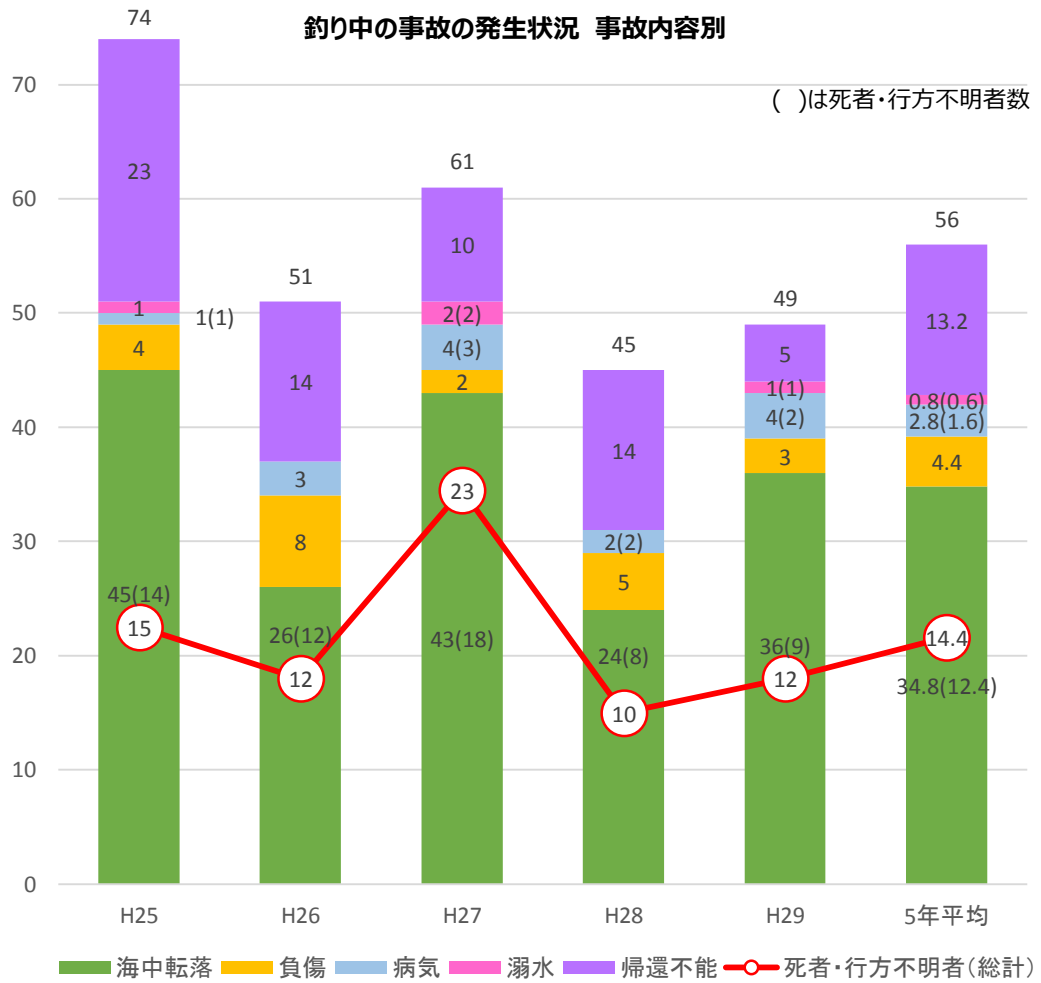


（3）釣り中の事故（※船舶海難によらない乗船者の人身事故及びマリンレジャーに伴う海浜事故によるもの）

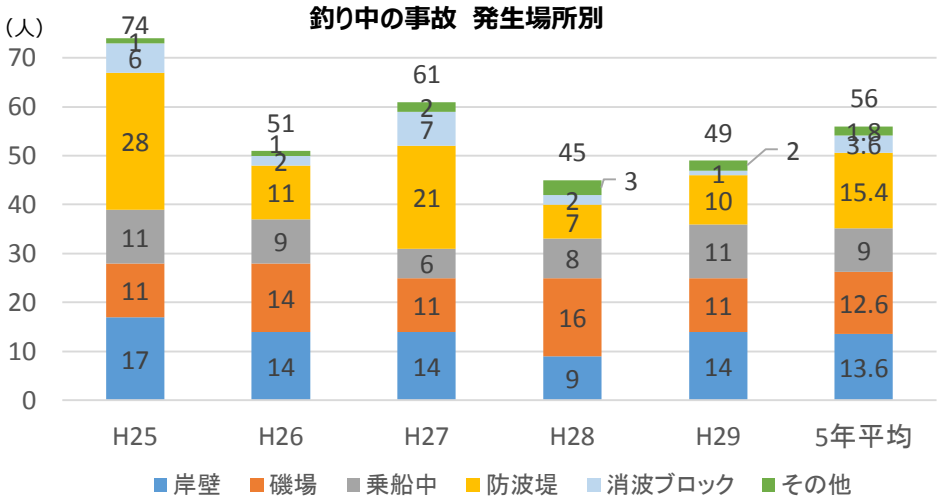
平成29年の釣り中の事故は49人で前年比4人増、死者は12人で前年比2名増となっています。
過去5年間では、9月から11月にかけて事故者数が多い傾向となっています。
事故内容別では、海中転落による事故者が36人と最も多い状況です。

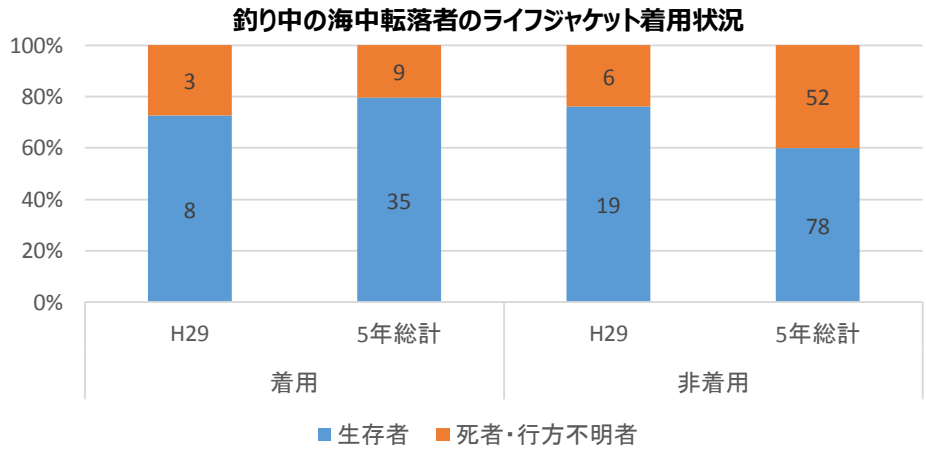


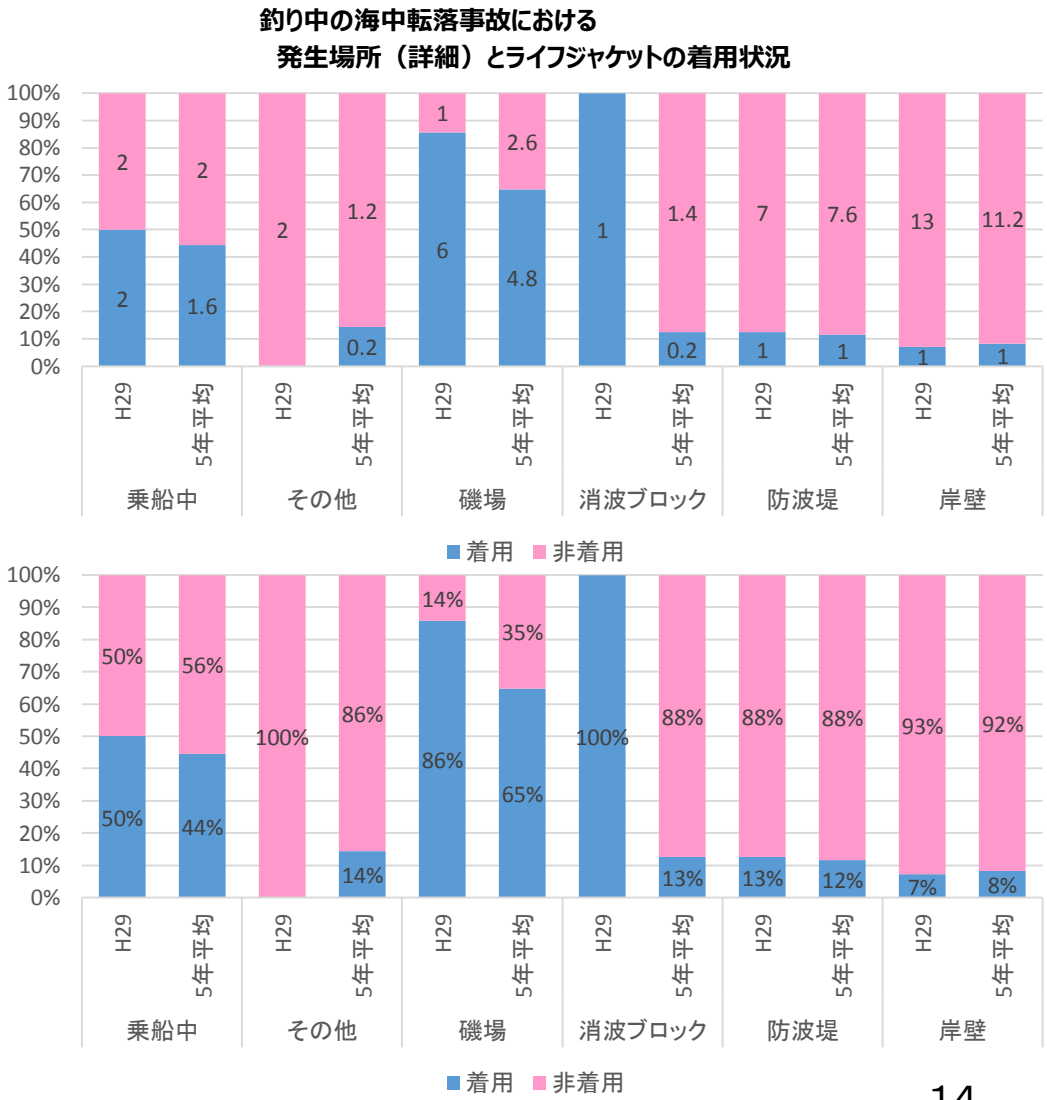




事故発生場所別では、岸壁、磯場、乗船中の順に多い状況となっています。
ライフジャケットの着用状況は、磯場、乗船中の事故者の着用率は高く、岸壁、防波堤の事故者の着用率は低い状況となっています。

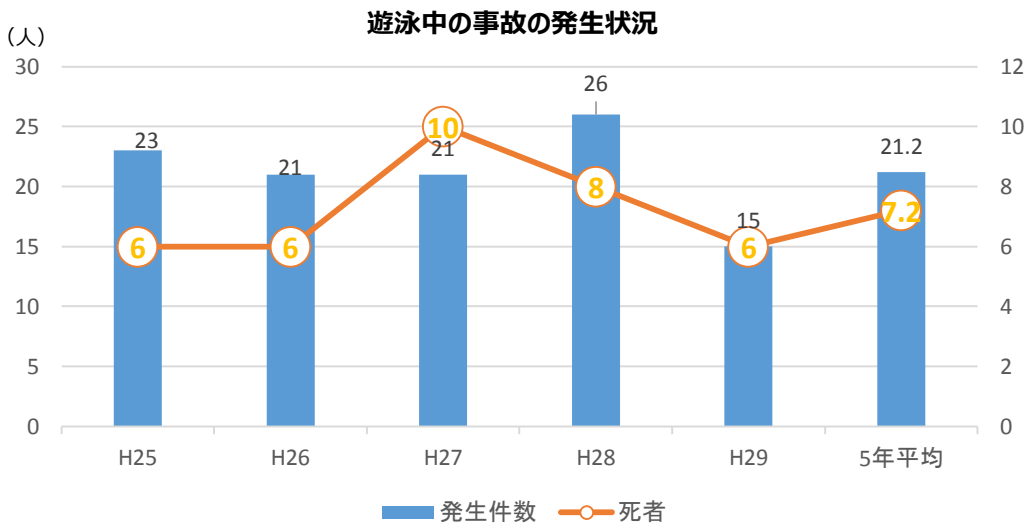


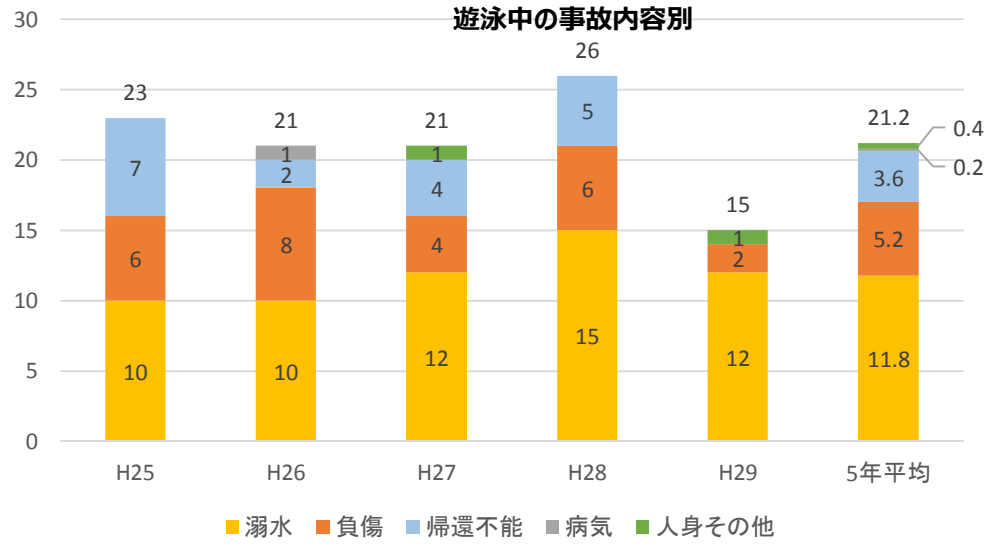


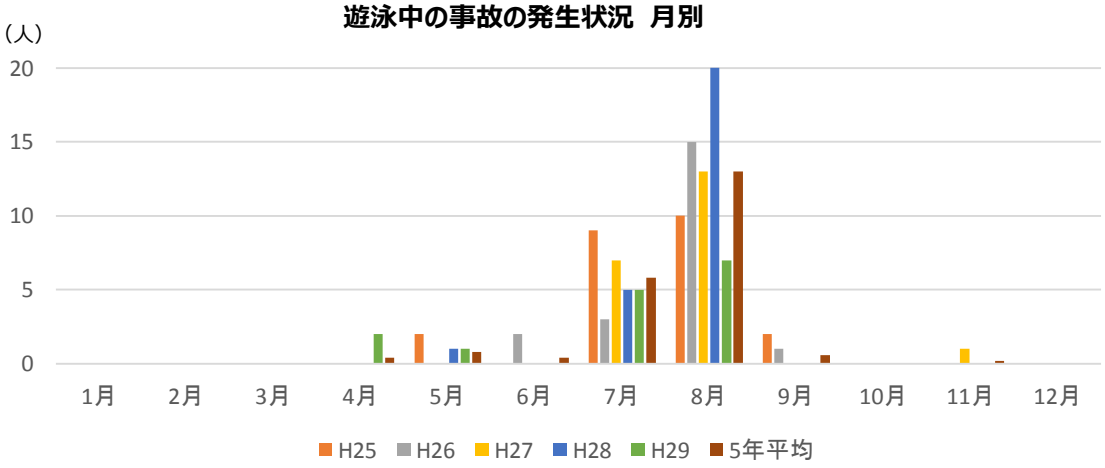


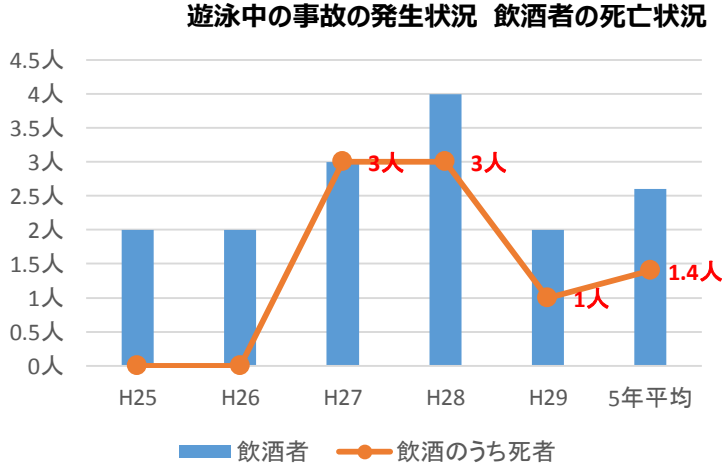
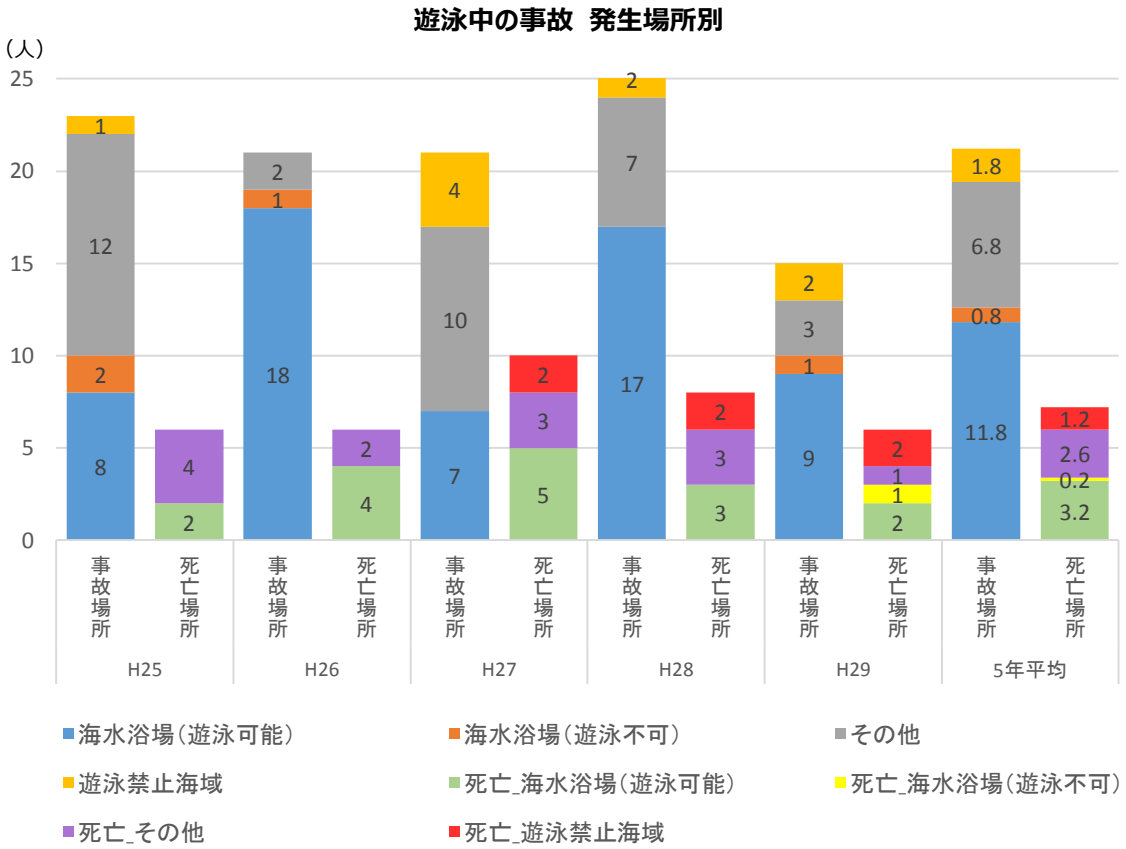
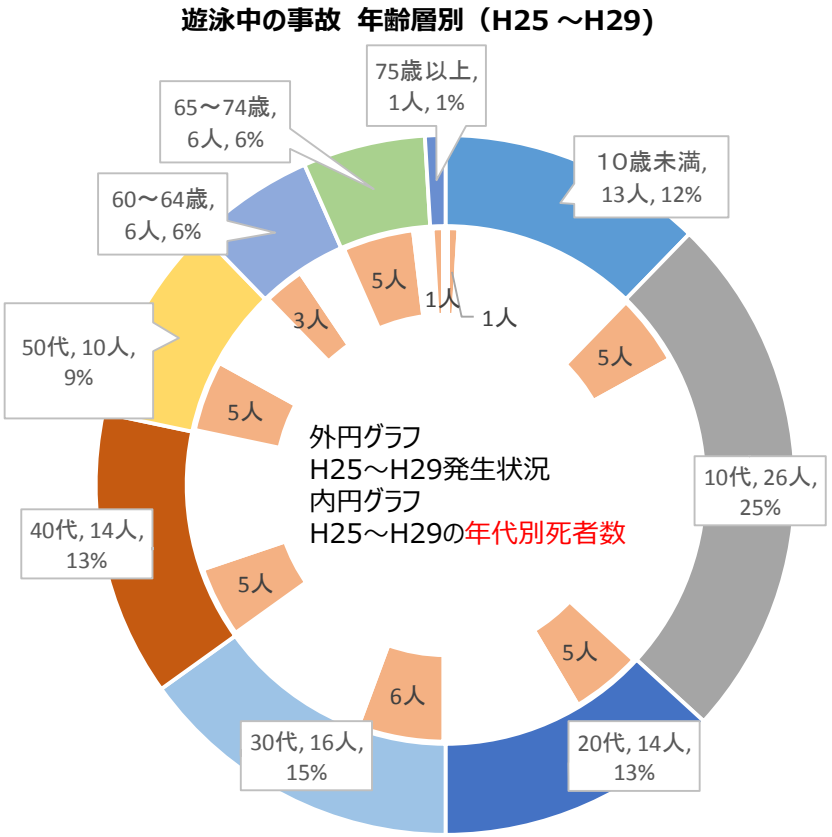
（4）遊泳中の事故

平成29年の遊泳中の事故は15人で前年比11名減、死者は6人で前年比2人減となっています。
事故内容別では、溺水が最も多く12人となっています。
飲酒による死者は1人となっています。









平成29年の事故の発生場所別では、遊泳禁止海域での死者が2人発生しています。
過去5年間における年齢層別発生状況は、10代の事故者が26人(25%)と最も多く、20歳未満の事故が約4割を占めています。
過去5年間における死者は、50歳以上に多く、同年代の事故者の半数以上を占めています。